

令和5年度実施協働事業の概要

No.	事業の名称	事業の概要
	○提案団体 ●事業担当課	
1	里山保全・再生と活用のモデル検討事業	森林面積が6割の相模原市には、街に接する里山林が多数あるが、その活用が不十分のため、手入れや再生が行き届かない里山林が多い。そのために、里山林の積極的な活用を通して、その保全と再生を図る。
	○特定非営利活動法人自遊クラブ ●森林政策課	
2	「さがみん条例」の1つのシンボルとなる相模原市オリジナル教育プログラム＝「シビックプライド向上ゲーム」開発事業	現在、相模原市には、シビックプライドを醸成するための代表的な教育プログラムはなく、市の魅力を「パズルとクイズカード」で遊びながら学べ、シビックプライドを涵養する教育プログラム（＝ゲーム）を開発する。
	○相模原市印刷広告協同組合 ●観光・シティプロモーション課	
3	野生鳥獣被害の実態や対策、生物の多様性を周知する事業	野生鳥獣による農作物の被害の状況やその対策を周知すると共に、野生動物の命の尊厳を守り、野生動物と人間との共生の在り方について市民と共に考える場を作り、生物多様性の保全と理解を促進する。
	○野生動物との共生の会 ●緑区役所区政策課	
4	「城山自然の家」を観光ゲートとした城山エリアでのe-bike ツアーの造成	中山間地域への入口（ゲート）に位置する「城山自然の家」を観光ゲートとし、相模原市緑区の城山エリアにおける特徴的な観光である自然散策をe-bike ツアーと組み合わせることでアクティビティ要素を加えた体験型観光に昇華し、当該エリアが抱えている課題（二次交通、来訪者属性の偏り、認知度の低さ、観光資源の未成熟さなど）の解決を図る目玉コンテンツとして造成する。
	○城山観光協会 ●観光・シティプロモーション課 ●城山まちづくりセンター	
5	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業	人口減少の時代にあって、「住んで良かった」と思えるまちづくりに貢献するために専用HPの運用、移住・定住に関する全般的な相談事業、中山間地域の住環境整備及び空き家対策等の事業を実施する。
	○一般社団法人 藤野観光協会 ●緑区役所地域振興課 ●観光・シティプロモーション課 ●住宅課	
6	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり	規格外や賞味期限間近の食材が廃棄されている一方、明日の食事にも困る世帯に食材を適宜配布することで循環型社会を実現させ、食の格差を削減することで、市民の暮らしの満足度を高めて、子どもや若者をはじめ誰もが生涯にわたり活躍でき、笑顔と希望があふれるまちを次代につなぐことを目指す。
	○フードコミュニティ ●青少年学習センター ●子育て給付課 ●資源循環推進課	